

恵みと真理のニュース



2012年11月の一次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養5洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】 私の生命、私の喜びとなる主

私は青年になるまで天地万物と私たち人間を創造された神様、イエスキリストによって罪人を救済される神様について全然知らないまま成長しました。

幼稚園の時は、何回教会に出たことはありませんでしたが、両親と家族全体が不信者だったので幼い私としては継続教会に出ることが出来ませんでした。

その後時間が経って軍隊を除隊してから大学に復校、偉い料理師になろうと一生懸命ホテル調理学を勉強していました。

忘れられないその日、その時、2008年4月22日のお昼でした。私は同じ学科の後輩のオートバイの後ろの席に乗っていましたが、落ちてしまって頭に大怪我をしました。

すぐ慶尚南道の梁山市にある病院で応急治療を受けてすぐに釜山市の大手病院に運ばれて脳手術を受けました。

手術後に長い間集中治療室で目覚めていなかった際、私についての連絡を受けたおじさんが急いで釜山に来ました。恵みと真理教会の按手執事だったおじさんは恵みと真理教会のジャンユ(長有)聖殿の大教区長の牧師をお供して病院まで訪ねてきました。おふたりは私のために切に祈って下さいました。生死の岐路にあった私に奇跡のような出来事が起きました。神様は私を憐れみ給ってご権能の手を差し出されました。治療の光線を発してくだされて奇跡的に意

識を取り戻しました。牧師とおじさんは神様に栄光を捧げて私と家族と医療スタッフの皆に神様の愛と権能を証拠しました。

その後、私は何回の手術とリハビリ治療で体調が復調して退院しました。退院後すぐに母と姉と一緒に恵みと真理教会に出で登録して信仰生活を始めました。あれから漏れなく主日礼拝、平日礼拝に熱心に出席しました。党会長趙鏞睦(チョヨンモク)牧師の説教を通じて神様について、私たち人間の罪とイエスキリストによる救済の恵みと真理についての神霊の知識が積もって信心が深くなってきてたくさんの恵みを受けました。救済の恵みがどれほど高くて大きいのかを分かるようになって、礼拝中心の生活がどれほど楽しくて幸せなのか体験的に理解できました。すべてのことが合わせられて善を成される神様、悲しみが喜びに、苦難が栄光にならせる神様の恵みと愛に感謝申し上げます。

神様の恵みと愛で健康を取り戻した私は2010年3月に復学ができて、ここ金海から梁山までバスで通学する遠い道に苦しみでも通いながら勉強したあげく卒業をしました。

その間、いろいろな困難にあつたにその都度神様のお言葉に力を得てお祈りと賛美で時宜にかなって助けをほどこされる神様の御恵みをいただいて十分勝ち抜けました。すべての賛美歌が恵み深いですが、私は大変で苦しい時には特に賛美歌93番を好んで歌っています。“イエスは私の力よ、私の命なる。救いの主去られると罪の世中に陥り、涙に暮れ、我が心に心配がつつ

る時、慰めて力となつてくださる主イエス…・限りなき福をくだされ、永遠な喜びをくだされ、我が生命、我が喜び主イエス”アーメン！今、私の一番大きなお祈り題目は父がしっかりした信仰を持つことと私に会うすべての人々が主イエスを信じて救済されて永遠に幸せな暮らしを楽しめることです。礼拝捧げに励んでお言葉の恵みを受けて、聖霊のお現れとその能力を体験するようになってからは、まだ主イエスを信じていない人々をみると哀れみを禁じ得なくて彼らの靈魂の救済のためにお祈りして時機にこだわらず、伝道に最善をつくしています。生死の境に立っている私を癒して救ってくださった神様、今日もお言葉と聖霊にてお供になさる、また永遠に私とお供になさってくださる神様を心から愛して、畏敬して、誇りに思いながら生きていくことを思い固め、大声で神様を称えます。

そして、私のために涙でお祈りして世話を焼いてくれた母、私の回復と学業のためにお祈りして声援してくれた恵みと真理教会のジャンユ聖殿の聖徒にありがたさをお伝え致します。神様にすべての栄光を捧げます。

“私は神様に近くあることを幸いとし、主なる神様に避けどころを置く。私は御業をことごとく語り伝えよう。”(詩73:28)

“命のある限り、恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り、生涯そこにとどまるであろう。”(詩23:6)ハレルヤ！



【信仰コラム】 義と天国

“言うておくが、あなたがたの義が法律学者やファリサイ派の人々の義にまさっていないければ、あなたがたは決して天国に入る事ができない”(マタ5:20)

生命体や物事を扱うとき、その中で大切さの差等と優先順位の判別が必要です。信仰においても同様です。まず救済の真理を正しく分かなければなりません。神様の聖經に啓示された救済の真理ではないと、どんな方法でも救済を得ることができません。救済とは‘天国に入ること’つまり、イエスキリストを信じて罪赦しを受け、義人となり、生まれ変わった神様の子女として永生を得て天国で暮らし、神霊な体に復活することです。

救済の意味を明確に理解して整理された知識を持つために、救済の内容となる用語のうち、とても重要で核心的な用語である‘義’という単語を中心に調べてみます。

人類の先祖、アダムが神様の命令を逆らった結果に罪人になり、彼の子孫に生まれたすべての人は罪人になりました。罪人には神様の震怒が臨んでいて死と同時に永遠な地獄刑罰に処するようになります。

よって、人々にとってもっとも大事で急ぎの問題は神様の震怒を避けて刑罰を受ける審判を免れさせてくれる対策を知ることです。神様は罪に対し、刑罰を与えられるので義人になるのが

その対策です。義は三つあります。

一番めに、絶対的な義があります。義は神様の変わらない属性で神様にのみ絶対に義があります。

二番めには、相対的な義があります。道徳と倫理の面での比較から表われる義です。しかし、いわゆる道徳君子や教養と徳性を涵養した人々、利他的で犠牲的な精神を持っている人々の相対的な義がどんなに大きくてもその人達も神様の前では罪人です。罪は本質的なことだからです。

三番めに、神様の恵みによる義があります。神様を畏敬し、神様のお話を信じて従う者に神様がプレゼントで下される義です。神様はノアを、アブラハムを義人と呼ばれました。彼らが神様の恵みを受けたからであり、神様のお話を徹底的に信じておとなしく従ったからです。

それでは、私たちはいかがですか？ イエスをお送りいただき、代わりに私たちの罪を背負い、十字架につけられて死なれて復活させた神様を信じる信仰を義と認められるとあります。(ロマ4:23~25)

別言にすれば、私たちの罪のあがないをされたイエスキリストを信じる人を義人と認めてくだされるとのことです。義人となり、天国に入ることまですべてが神様の恵みによるのです。私たちがすることは何にもなく、何かを少しでも

足そうとしてはいけません。私たちが神様の栄光のために生き、主を喜ばせようと努めるのは神様に借金を返すためではありません。こういった真理を明らかに知って真心でイエスキリストを信じて義人となり、救われたことが真に不思議で嬉しくて有難くてすることです。自分に起きた身分の変化と与えられた福を認識する深さに比例して献身する楽しみと幸せを感じるようになり、強くて大胆になります。本文のお話には二つの意味が含まれています。第一に、ファリサイ派の人達はユダヤ教の規例に対する厳しい遵守だけではなく、聖經以外にも宗教的な慣習と伝統を徹底に守ろうと努力する人達でありました。しかしながら、問題は過ぎて彼ら自身が律法を徹底に遵守することによって義となると思いました。そして彼ら自身の努力で救済を受けようとしたのが致命的な過ちであって、結局偽善の罪まで足されました。第二は、イエスキリストの福音を信じる弟子達の持っている義はファリサイ人のように人間の行為で遂げようとする義とは全く性格が異なることを意味します。ファリサイ人達の義を超える義は人間の行為による義ではないという意味です。イエスキリストを信じる者に与えられた義は相対的な義ではなく、神様にいただく‘神様の義’であるのです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

必要な質問と必要ない質問

子供たちが育ちながらある日から好奇心が一杯な目つきで質問を始めます。人が年を取りながらますます好奇心が減って質問が消えることはその間多くの経験と知識を得るようになったという意味もあるが、知的欲求と進就性が消滅したという意味であることができます。さまざまな事物に対して健全な欲求から始まる質問を持つことは良いことです。しかし人格的な関係では違います。どんな人を深く分かって完全に信頼し得るようになればその人の行動や要求に対してこれ以上質問する必要がなくなることができます。今日は一緒によく見ようと思うことは神様に対しての質問に関したのです。私たちは相反する二つの態度を持たなければなりません。

第一は、神様に対してもっとたくさん分かるための質問をしなければなりません。

ホセア予言者はイスラエル国がリーダーたちの腐敗と民の偶像崇拜によって神様の懲罰を受けて破滅するようになることを警告して悔改を促しました。ホセア予言者は“私の民が知識がないので滅びる”(ホセア 4:6)で歎息したし“だから私たちは主を知ろうせつに主を知るところを求めよう”(ホセア 6:3)で叫びました。パウロはユダヤ人として幼い時から聖書を接したし聖書にうまかったです。しかし聖書に予言されたメシヤに対して正しく分からなかったです。救援の真理が分からなかったです。そしてイエス様を信じて福音を伝えるキリストチャンたちを憎悪しました。彼は外国の城 ダメセックにあるキリストチャンたちを取って来ようとその事を遂行する人々を連れて行きました。彼がダメセックに近い行った時大きい光が掛けて照らすので地に伏せられました。そして光の中で彼に現われた方を見るようになりました。“主よどなたですか?”と質問しました。“私はあなたが逼迫するイエスだ。”という返事を聞くようになりました。その場でパウロはイエスキリストを迎えました。そして異邦人のための使徒に立てられることになりました。神様に対する知識は深みが限りないです。神様は創造者です。神様は救贖者です。神様が分かる知識を持つようになれば人生観が変わります。宇宙観、歴史観、生死観、価値観が変化されます。人が持つ質問の中に一番貴重な質問はパウロがダメセック路上で地に伏せられて問った“主よどなたですか?”という質問です。ヨハネ福音 1 章にイエス様に対して記録されたのは“彼が太初に神様と一緒にいらしたし万物がそれによって建てられたところになったから作ったことが一つも彼がなくてはなかったことがないだ”(ヨハネ 1:2,3)。“律法はモセによってくださったのであり恵みと真理はイエスキリストによって来たことであるから本来神様を見た人がいないが父にある獨生した神様が現われました”(ヨハネ 1:17,18)しました。

ヘブル 1 章 3 節にはイエス様を示して“これは神様の光栄の光彩であるその本体の形象だから彼の能力の言葉で万物をつかんで罪を貞潔にさせる仕事をなさって高い所にいらっしゃる威厳の右便に座られましたと”言いました。パウロは神様を“私たちの主イエスキリストの神様”(エペソ 1:17)と言いました。神様はイエスキリスト中で自分を完全に現わしました。イエスキリストは神様です。パウロは“主はどなたですか?”という質問に対する答を得るようになるとまっすぐに“神様、私が何をしなければなりませんか?”と質問しました。“主はどなたですか?”という質問に対する答を得た人は一生の間“神様、私が何をしなければなりませんか?”という質問をしながら生きて行かなければなりません。そしてその答を得るために聖書を常に黙想して詳考しなければなりません。

第二番目は、神様が行う事に対して質問する必要があってはいけません。

どんな人を深く分かって完全に信頼し得るようになればその人の行動や要求に対してこれ以上質問する必要がなくなることができます。よくある事ではないがあり得る事です。ところで神様に対しては私たちがこんな境地に至らなければなりません。しかしたやすい事ではないです。モセは神様のなさる仕事に対して“どうして”という用語を使ったことがあります。モセが神様の呼ぶことを受けて市内山上に上がったが多くの日が経っても下らないでイスラエル民がアロンに要求して金で子牛形象を作ってその前で燔祭と和睦制を差し上げて食べて飲みながら遊び回りました。神様がモセにおっしゃいました。“私が彼らに震怒して彼らを所滅してあなたとして大きくなった民族で作る。”モセがその神様エホバに懇請しました。“エホバよどんな理由でその大きい権能と強い手でエジプト地で導き出した主の民に震怒なさるんですかどんな理由でエジプト人がいうのをエホバが怒ろうのためにその民を山で殺して地面で所滅しようとする導き出したと言うようにしようとなさるんですか主の猛烈な震怒を止んでみ旨を振り返って主の民にこの災いを下げない主のしもべアブラハムとエサクとイスラエルを憶えてください主が主を示して彼らに誓って話したのを私があなたたちの子孫を空の星のように多くして私の承諾したこの全地をあなたがたの子孫に与えて永遠に企業になるようにしようと言いました”(出 32:11~13)。神様がみ旨を振り返って自分の民に下るとおっしゃった災いを下げなかったです。私たちはモセの切に求める態度で模範とすることと模範としてはいけないことを分別しなければなりません。モセはただ神様の名前、神様の光栄を思ってイスラエル民に災いを下げないように切に求めました。そして神様の口の約束に根拠して切に求めました。私たちが模範としなければならぬ点です。ところでモセが使った“どうして”という言葉は適切ではないです。神様が無性に震怒なさるのではなく震怒なさる理由が明白です。そうするので“神様、神様が可憎するように思う偶像崇拜を一この民に震怒なされて所滅なさろうと思うことは当たり前の事です。

しかしそれによってエジプト人々に物笑いものを提供するようになって神様の光栄をさえぎるようになるか恐ろしいです。神様がアブラハムこととエサクとヤゴブに約束したみ言葉を憶えてくださって矜恤を施してください。”と言うのがもっと適切だろう。しかし神様がモセの真正な心が分かったから“どうして”という言葉は見逃してモセの祈禱を聞いて神様がみ旨を振り返って自分の民に下るとおっしゃった災いを下げなかったです。決して模範としてはいけないモセの間違いが他の所に記録されています。イスラエル民たちがエジプトを去ってから第 40 年になる正月でした。彼らがカデスバネアに集結したが水が枯渇しました。民たちがモセを恨むと神様がモセに指示しました。“あなたは杖を取りなさい。あなたとあなたの兄さんアロンが会衆を召集して彼らが見る前で盤石に言い付ければそれが水を出すでしょう。このように盤石で水が出るようにして会衆と彼らの家畜が飲むようにしなさい”(民 20:8)。モセとアロンが会衆をその盤石の前に集めてモセが彼らに言うのを“そむく人たちよ聞きなさい私たちがあなたのためにこの盤石で水を出そうか。”して手をあげて杖で盤石を二度打つと水がたくさん湧き出ました。すると神様がモセとアロンにおっしゃるのを“あなたたちが私を信じなくてイスラエル子孫の目の前に私の神神しさを現わさなかったのであなたたちはこの会衆を私が彼らに与える地で導いて入れることができないだろう。”しました。モセは長所が多い人だったがこの一つ欠点に彼の生涯に重大な損失をもたらしました。夢見るガナアン地に入ることができなくなりました。アブラハムの場合をよく見ましょう。アブラハムの卓越な点は神様の指示に対して“なぜ”と問わない態度です。ある日神様がアブラハムを呼んで命じました。“あなたの息子、あなたの愛するひとり子、エサクを連れてモリア地に行つて私があなたに指示するある山そこで彼を燔祭で差し上げなさい”(創 22:2)。青天家歌みたいなお話でした。しかしアブラハムは朝早く起きてろばに鞍を付けて二人の小使いとエサクを連れて燔祭に使う木を割って行って去って神様が自分に指示する所に行きました。(創 22:3) 神様を深く分かって完全に信頼し得るようになれば神様の行う事や要求に対して質問する必要がなくなります。神様に対してこんな境地までのぼらなければなりません。

聖徒の皆さんは神様の品性と口の約束とみ旨をもっとたくさん分かるのを願って聖霊に質問して教えてくれるのを求めてください。そしてその広さと長さで高さで深みがどうさを悟って神様のすべての充満するのを願います。そして一方では神様を深く分かって神様を完全に信頼することで神様がなさる仕事と命令に対してどんな質問も必要ではなくて所望と喜びで順従する生活をなさってください。